

文理選択の前に ジブンの今と将来を

考えてみよう！

文理選択は高校での履修科目に関わるだけではない。大学選びや職業選びにもつながるのだ。そのため、将来をイメージして選択する必要がある。

進路を考えることは、 自分自身を考えること

将来のことを考えるといっても、「考えるきっかけ」になるものがないと難しい。実は自分自身の将来とは「自分の過去」や「今、興味があること」につながっているものだ。まずは、「自分自身の今」

を掘り下げるところからスタートしよう。そのうえで、社会のニュースや周囲の人の意見などを参考にすると、将来のイメージに広がり生まれる。下に紹介するヒントも参考にしよう。



考えたこと、体験したことを記録に残そう！



Q 記録に残すメリットは？

自分自身の成長を確認できる

思いや体験を記録に残すことで、「自分が何を考え、どう変化してきたか」がひと目でわかるようになる。成長が実感できれば、次の挑戦、アクションに対して積極的になれるはずだ。

振り返り=学びが深くなる

記録したことは定期的に振り返ってみることが大切。そのときの「取り組んでいること」「学んでいること」とのつながりが明確になり、学びが深まる可能性が高くなる。

受験生になったときに活用できる

大学入試では、高校での「活動報告書」が課される場合もある。「3年間の体験、考えの記録」=「高校での成長の記録」だ。しっかり残しておくことで、入試でその成長ぶりをアピールできる。

今の自分を知るためにやってみよう

自分の思いを書き出してみる

「気になること」「やりたいこと」「やりたくないこと」などを、どんどん書き出してみよう。もやもやした思いが整理され、将来のイメージにつながる可能性も。

好きなことにとことん熱中する

「自分が好きなこと」「興味があること」にとことん熱中するのもひとつの手だ。「やりたいこと=今の関心事」を深めることで、次のアクションが見つかるかも。

苦手なことにあえてチャレンジしてみる

自分の可能性を広げるには、あえて苦手なことにチャレンジするのもいいだろう。これまで気づいていなかった自分の興味・関心事が発見できる。

将来を考えるためにやってみよう

新聞やニュースを見ている

じっくり新聞を読む時間を取るのには難しいかもしれないが、ときどきニュースをチェックするのは必要。世の中の新しい動きから、関心事を見つけよう。

家族や友人以外の人と話してみる

同じ話題について話している、年齢や立場が違えば異なる意見が出てくる。普段、あまり話さない人と話すことで、きっと視野が広がるはず。

社会・仕事と学問の関係を調べる

気になる社会のニュースや仕事と関連する学問、それを学べる大学について調べてみよう。本誌p.48~の「未来の社会を想像してみよう」も参考になる。

大学研究の記録を残しておこう！

①パンフを取り寄せる

文理選択に向けて、気になる大学について調べておこう！大学パンフは、その大学で学べる内容、学部・学科の情報、キャンパス情報などが載っているので、大学研究に最適。

②別冊に記録

大学パンフを読んでわかったことを、ワークブックのp.18、19に残しておこう。いくつかの大学パンフを比べることで、それぞれの特徴が見えてくるはずだ。

